

3. A S P (学びの杜)部会中間報告

石 鈴 大 曽 川 木 大 村 我 久 美 直 雄 仁 彦 加 司 近 司 藤 容 口 和 一 悅 子

2006年度8月までの取り組みについて以下の(1)~(6)の点について検討を行った。

(1)目標とする学びの力が育っているか

「A S Pの目標」

1. ことばを用いた高度な論理的思考力・表現力
2. 数学的・科学的方法を用いた高度な問題発見・問題解決力
3. 自然・社会に関わる事象に関する科学的理解力
4. 多元的な思考力
5. 科学と社会に関わる倫理観
6. 高度な実験技術

1について

例えば「生命探究講座」の伊藤先生の授業では映画の中の科学的な過ちについて、グループ討論の後発表会を行った。地球市民講座でも話し合いや発表の機会がある。

2について

「数学探究講座」「理学探究講座」では、数学的・科学的方法を用いて課題を考える機会はあるが、自分で発見するような機会はあまりない。

3について

広義の科学と考えれば、すべての講座で実践されている。

4について

すべての講座で実践されている。

5について

科学と社会との関連を考えているが、倫理観まで発展できるかどうかを検討。

6について

6講座では、今年度は実験は実践できなかった。

生物Ⅱの農学部でのDNA実験、三重臨海施設でのウニの実験が高度な実験技術に該当する。基礎知識のある、生物や化学、物理選択生が高2、高3になってから、少人数で活動しない限り実践できない。

(2) S L P IIとの関連

例：「生命探究講座」「地球市民講座」では、S L P II担当の本校教員と、講座担当の大学教員がS L P

IIのシラバスを見ながら、共に講座内容を検討した。いずれの講座もS L P IIの発展的内容となっている。

(3)教科へのつながり

例：「自然と科学」での内容が、高2の数学や物理への導入となっている

(4)教科への要求

例：世界史の流れを把握していないと「自然と科学」「地球市民学」の内容が理解できない

(5)教科からの要求

例：指數、対数の概念を高1新教科の中で取り上げられないか。

(6)具体的な取り組みの状況と問題点

①今年度の参加状況

2年目となって参加生徒数が減少するかと思われたが、理学講座、数学講座ともに60人以上の多人数となった。また、生命科学講座も27人と適切な人数であった。参加している生徒はまじめに取り組んでいる。

②内容について

医学系、文学系もあるとよいが、数学、理学、生命科学、地球市民、法学、教育の6講座で6講座×10回×90分あり、これ以上は難しい。

③実務的な改良

- ・当番マニュアルの改訂
- ・第一総合、第三総合の機器類のマニュアルの作成
- ・出欠、欠席者への連絡方法の検討

④問題点

- ・評定
- ・数学探究講座では、理解できないため、途中で理解することをあきらめてしまった生徒がいた。
- ・部活動との選択に迷う生徒もいる。部活との日程の調整が必要
- ・理学、数学、生命の重なりがそれぞれ2回ずつあり、どちらに参加するか迷う生徒もいた。欠課が増えて評定が悪くなる場合もある。年間2つ、あるいは4

つまで、というように上限を決めた方がよいのでは
ないか

- ・謝金
- ・S S H 予算で物品を請求しても物品が届くまでに
1ヶ月かかる。今回生命探求講座で使用した30冊の
本が間に合わなかったため他の予算で購入した。

以上の点を踏まえて、今年度内に来年度の予定を計画
していく予定である。